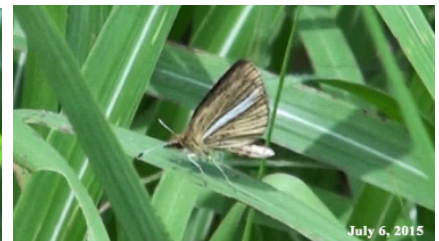
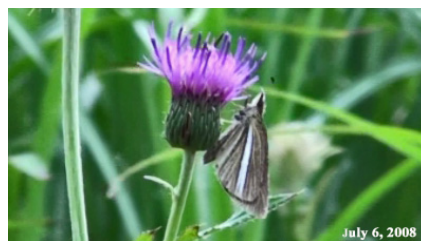


ギンイチモンジセセリとの初の出会いは、飼い猫2頭を連れて大河内町から徒歩で登った兵庫県砥峰高原の草地で、ウスイロヒョウモンモドキとともに予期しない出会いを果たしているが、撮影記録がとれていない。この草原の一角にあった湿地にはヒメヒカゲもいて、ウスイロヒョウモンモドキとともにこの地での絶滅が明らかとなった時点で、当時の採集個体標本を三田の「人と自然博物館」に寄贈した。

July 6, 2008 : 兵庫県八千高原

二度目の出会いは、ウスイロヒョウモンの保護団体が主催する「チョウ観察会」に参加した際に、ウスイロヒョウモンモドキとともに、高丸山の山頂部草地でアザミの花を訪れた個体に遭遇し、初めて撮影記録を撮れた。この個体はすぐに草むら奥へと飛び逃げたが、なんとか見失うことなく落ち着いたところの記録も撮ったが、周りの草のせいでフォーカスが甘くなってしまった。



Aug. 2, 2015 : 岡山の高原草地

三度目の出会いは、ゴマシジミを撮影に行こうとの蝶友の誘いで訪れた、岡山の高原草むらから少し離れた、キセルアザミなどもあっていかにもヒョウモンモドキが発生していた時期もあるのではないかと思わせる湿地帯で、ひっそりと静止している個体に出会う。発生からいくらか時が過ぎているのだろう、すでに新鮮度が低いがおのよ様に思いもしないチョウに出会うとうれしくなる。



北海道、本州、四国、九州と分布は広いが、その生息地は局地的だとされる。幼虫の食草は多くのセセリチョウの仲間と同じくイネ科のススキ、チガヤ、ヨシ、アブラススキなど食性は広いようで、知人が公開しているブログ記事などを見れば、兵庫県では河川敷などにも発生地があるようだが、筆者はまだそのような場所を知らない。